

Title	家兔リンパ組織における細網細胞の電子顕微鏡的研究( Abstract_要旨)
Author(s)	頼, 正夫
Citation	Kyoto University (京都大学)
Issue Date	1964-06-23
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/211279">http://hdl.handle.net/2433/211279</a>
Right	
Type	Thesis or Dissertation
Textversion	none

【 64 】

氏 名	頼 正 夫 らい まさ お
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 記 番 号	医 博 第 160 号
学位授与の日付	昭 和 39 年 6 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 1 項 該 当
研 究 科 ・ 専 攻	医 学 研 究 科 生 理 系 専 攻
学 位 論 文 題 目	家兎リンパ組織における細網細胞の電子顕微鏡的研究
論文調査委員	(主 査) 教 授 堀井五十雄 教 授 西村秀雄 教 授 岡本道雄

論 文 内 容 の 要 旨

近年リンパ節ではリンパ洞内皮および血管内皮の外を細網細胞が取り囲み、リンパ洞および血管を実質から境していることが明らかになった。本研究は他のリンパ組織について行なわれ、リンパ管および血管と細網細胞、リンパ実質とが全く同様の関係にあることを明らかにした。

材料として家兎虫垂集合リンパ小節ならびに口蓋扁桃が用いられ、オスミウム酸固定、Epoxy 樹脂包埋、超薄切片、水酸化鉛またはウラニールアセチト染色後観察に供せられ、さらにリンパ管を確かめるため同時に約  $2\mu$  の切片が作られ脱包埋後フィールド染色によって光学顕微鏡観察が併せ行なわれた。その結果虫垂集合リンパ小節でも口蓋扁桃でも同様の所見が得られた。リンパ管には基底膜はみられない。内皮下結合組織を構成する線維はやや太く疎に排列し、しばしば同方向に走る線維が集まって線維束を作り、異なった方向に走る線維束と交互に走っているのがみられる。細網細胞はその外をほとんど完全に取り囲んでいる。いいかえるとリンパ実質は結合組織ならびに細網細胞によって管腔から隔てられている。ところが細網細胞の突起が断裂しているところが一部にみられる。リンパ球はこういうところから管腔に入るものと考えられる。事実断裂した細網細胞の突起の間を通過して内皮下に游出するリンパ球のいろいろの過程の所見が得られた。ここに分布する毛細血管や細静脈もリンパ管同様内皮下結合組織の外を細網細胞で取り囲まれているが、概してリンパ管ほど完全でないところが多い。しかし血管にはリンパ管と異なって内皮下にはっきりした基底膜が認められ、内皮下結合組織は緻密で、リンパ管と異なって微細な線維が密に排列している。リンパ管と血管が隣接しているところでは、両者間の結合組織に共通した細網細胞の突起がみられ、しばしば二重、三重に走っている。以上のほか実質を走る結合組織索が両側から細網細胞の突起でおおわれていることが分った。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

著者は従来報告の欠けていたリンパ組織について、リンパ管、血管と細網細胞との関係を明らかにし

た。材料は家兎虫垂集合リンパ小節および口蓋扁桃である。

リンパ管は内皮下に基底膜を欠き、主として膠原線維が時に線維束を作り、時に交互に異なった方向に走り、さらにその外を細網細胞がほとんど完全に取り囲んでいる。ただし細網細胞には一部突起の断裂した個所があり、ここからリンパ球が管内に游出する像が捉えられた。

リンパ小節における毛細血管や細静脈もリンパ管類似の構造を示すが、血管ではリンパ管と異なって内皮下にはっきりした基底膜がある。リンパ管と血管とが隣接した所では両者間の結合組織に共通した細網細胞がみられる。またリンパ実質内を走る結合線維索は両側から細網細胞の突起で被覆されていることが判った。

このように本研究は学術的に有益であり、医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。